

八月の遺書

能島龍三著

主人公の父親は軍隊での捕虜斬首を自慢していた。思想の違いから絶縁し



本の泉社
1100円

ていた父の秘めた姿を知り、体験を次の世代へ伝えようと決意する「分断の系譜」。南京虐殺、特攻、朝鮮人の強制連行…加害と侵略の責任をどう受け止め、どう伝えるか。戦後生まれの作者が問いかける短編集です。

表題作は、看護師だった祖母が中国で生体解剖にかかわった事実揺れる女性医師。中国人医師の「日本人はあの戦争での、他国の犠牲者のために悲しんだか」の言葉が突き刺さります。